

## 今月の御教え

いざなぎ

いざなみのみこと

あまてらすおおみかみ

伊邪那岐、伊邪那美命も人間、天照大神も人間であり、その続きの天子様も人間であろう。神とはいふけれども、みな、天地金乃神から人体を受けておられるのである。天地の調えた食物をいただくかれば命がもつまい。そうしてみれば、やはりみな、天が父、地が母であって、天地金乃神は一段上の神、神たる中の神であろう。

……「天地は語る」第十六条……

解説

この御教えは、西南戦争にも勝利し政権の基盤も固まった明治十五、六年ごろ、時の

為政者は更なる自身達の権力基盤を固めるために、天皇の神格化を意図し「現人神」

あらひとがみ

として国民の教化に乗り出した頃の御理解であります。この政策に対して、教祖・金光大神様は「日本の国造り神話の伊邪那岐、伊邪那美命も天照大神様も神とは言えども元々は人間である。さすれば、その子孫の天子様(天皇)も尊いお方ではあるが、決して神ではない。その証拠に天子様もこの天地のお恵みを頂いてこそ生かされているのであり、命脈も限りがあるではないか」と諭され、私達人間に御分霊を下さり、天地のお恵みをお与え生かして下さる天地の親神様こそ真の神であり、この天地宇宙の最高の神である事を説かれた御教えであります。